



新しい金融世界へ向けた ブロックチェーン銀行

ビジョンペーパー

2019年9月（更新版）

LCX の紹介 - 新しい金融世界へ向けたブロックチェーン銀行

LCX の目標は、従来の資産と暗号資産をシームレスに融合した、世界初の認可され監督下にあるブロックチェーン銀行の1つになることです。

LCX は新たな銀行のカテゴリを生み出します：

- 透明性と報告のための新しい基準を導入し安全
- 顧客中心のクライアントエクスペリエンスを提供する**技術主導型**
- **暗号資産**に焦点を当てながらも**従来の銀行サービス**を完全に提供

LCX は 2019 年 6 月に **LCX Terminal** と呼ばれる暗号取引デスクを立ち上げました。さらに LCX は **LCX Banking** と呼ばれるフィアットと暗号通貨のための取引銀行、暗号管理サービス **LCX Vault**、セキュリティトークンや他の暗号資産の交換所となる **LCX Exchange**、様々なトークン化証券である **LCX Assets** の立ち上げを予定しています。

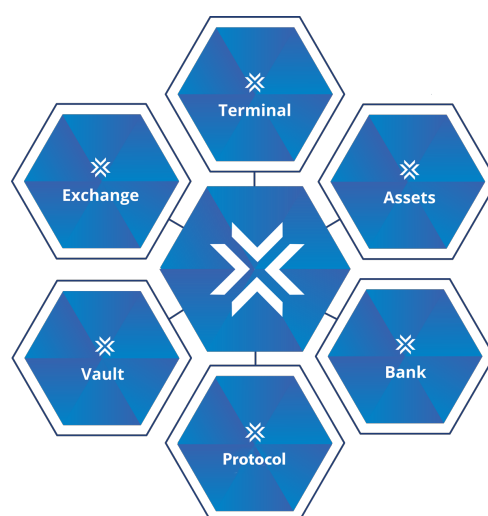
LCX は、暗号市場と従来の金融市場の間で資産のシームレスな移動を可能にしたいと考えています。

技術主導型のブロックチェーン銀行となる LCX は、暗号通貨とトークン化資産の成長から生じる機会を最大限に活用するために、従来型市場と暗号市場の参加者双方を支援することに重点を置いています。

リヒテンシュタインのファドゥーツに本社を置く LCX は、2018 年 11 月に既にビジネス取引ライセンスを取得しています¹。現在リヒテンシュタイン金融市場局（FMA）にフルバンキングライセンスを申請しています。これにより、LCX は機関投資家および資格を持つプロの投資家に包括的な銀行サービスとライセンス付き暗号製品を提供できるようになります。

LCX ではグローバルな経済改革とファイナンシャル・インクルージョンを喚起するために、金融機関とプロの投資家に対しブロックチェーンが持つポテンシャルの理解を支援することにより、暗号商品の採用を促進します。

LCX は**世界経済フォーラム**の²第 4 次産業革命センターの一員となり、中央銀行および金融業界やその他の既存企業のイニシアチブをサポートしています。さらに、LCX は Blockchain Research Institute によって**ブロックチェーンパイオニア**³に指名されました。



¹ LCX, Liechtenstein Cryptoassets Exchange, receives Business License:

<https://medium.com/lcx/lcx-liechtenstein-cryptoassets-exchange-receives-business-license-6bd732ea4f3f>

² LCX joins World Economic Forum (WEF) Centre for the Fourth Industrial Revolution: <https://medium.com/lcx/lcx-joins-world-economic-forum-wef-centre-for-the-fourth-industrial-revolution-26ce33542b70>

³ LCX named Blockchain Pioneer by the Blockchain Research Institute: <https://medium.com/lcx/lcx-named-blockchain-pioneer-by-the-blockchain-research-institute-9e0d544daef>

目次

LCX の紹介 - 新しい金融世界へ向けたブロックチェーン銀行	1
目次	2
ブロックチェーン技術の時代 - 新たな金融秩序	1
知識のインターネット	1
価値のインターネット	1
デジタルマネー	2
暗号通貨：プログラム可能なお金	2
トークン化：プログラム可能な流動性	3
証券化：プログラム可能なコンプライアンス	3
ブロックチェーンバンキング：プログラム可能なファイナンス	4
新しい金融秩序	5
セキュリティトークンとその他の暗号資産	6
今日の銀行の変革	7
機関投資家参入の障壁	7
暗号資産 - 管理ソリューションの欠如	8
既存取引所の状況	9
ステーブルコイン - デジタル・セーフ・ヘイブン	10
規制の欠如	11
暗号資産に対する機関グレードの需要	11
リヒテンシュタイン公国 - 暗号国家？	14
ブロックチェーン法	14
LCX - 新しい金融世界へ向けたブロックチェーン銀行	16
LCX の哲学	16
LCX - 製品とサービス	17
LCX Bank	18
LCX Terminal	19
LCX Exchange	20
LCX Assets	21
LCX Vault	21
LCX Protocol	22
LCX パートナーシップ	23
世界経済フォーラム	23

Ledger	23
Blockchain Research Institute	23
グローバルデジタルファイナンス (GDF)	23
セキュリティトークンアライアンス (STA)	24
Liquid	24
LCX マネジメントおよびチーム	25
LCX アドバイザー	26
ドン・タプスコット、ブロックチェーンの第一人者	26
ジミー・ウェールズ、ウィキペディア創設者	26
プラメン・ルセフ、Webit Foundation	27
プラメン・ルセフ、Webit Foundation	27
蕭逸 (ヤット・シウ)、Outblaze、Animoca ブランド	27
ミコ・マツムラ、ソートリーダー	28
デイビッド・ミケルセン・トロエンセガード、社会起業家	28
LCX ロードマップ	29
免責条項	3

ブロックチェーン技術の時代 - 新たな金融秩序

リーマンブラザーズの崩壊と 2008 年の金融危機は、現代の銀行業務のシステミックリスクを明らかなものとししました⁴。この現代のブラックスワンは、「つぶすには大きすぎる」銀行が突然かつ膨大な破たんの中心地となり、世界の資本市場の安定性を損なうことで、グローバルな銀行ネットワークの脆弱性を前面に押し出しました。

その後、ますます複雑化する規制が政府によって正当化されました⁵。ゼロに近い金利で、中央銀行はいつになくアグレッシブな金融政策を展開しました。しかしこの政策対応は、危機の中核にある根本的な問題には対処していませんでした。銀行や決済機関からカストディアンや預託機関に至るまで、現代の金融システムはつながりの弱い縦割り組織のままです。その根本的な透明性の欠如は、リアルタイムに集約された監査が困難であることを意味し、リスクが蓄積しシステムに亀裂を生じさせることを可能にしています。

新しい金融デザインの探求は避けられません。

知識のインターネット

コンピューティングの長年の進歩の後、90 年代はこれまで想像もできなかった方法で世界をつなぐ、グローバルな通信インフラストラクチャ（知識のインターネット）の 10 年となりました。知識のインターネットの中核には TCP/IP の採用がありました。TCP/IP は、許可なく情報を交換できる世界初のグローバルプロトコルでした。このネットワークテクノロジーが世界的に普及するにつれて、90 年代は資本市場にとってのチャンスの波だけでなく、完全な社会のおよび経済的な変化をもたらしました。印刷機の発明と同様に、この世界規模のメッセージングテクノロジーは、政府、宗教、メディア、印刷からの知識の流れ（誰への知識の流れ？）の仲介を不要にします。

従来の機関がデジタルプラットフォームを採用し、新しい「e コマース」経済が出現したことで、知識のインターネットは金融サービス業界を一変させました。グローバルネットワークにより、銀行と金融システムとのやり取りの方法が変わり、フィンテックはユーザーと銀行とのやり取りの方法を合理化しました。高速な交換所により市場の効率が向上し、絶え間ない情報の流れによりリスク管理手法が強化されました。

これらの急激な変化にもかかわらず、変化は表面的なままでした。知識のインターネットはグローバル化のプロセスを加速し、既存の金融セクターを拡大しましたが、価値の転送は標準化しませんでした。前述のように、金融システムはつながりの弱い元帳のネットワークであり、システムの崩壊に対して脆弱であり、監査人、一般市民、規制当局の監視の目を逃れています。

価値のインターネット

リーマンブラザーズが崩壊した同じ年に、「サトシ・ナカモト」がビットコインのホワイトペーパーを匿名でリリースします。⁶これは開かれた金融への移行における前例のないマイルストーンとなりました。ビットコインのホワイトペーパーは、ピアツーピアネットワークでの二

⁴ Risk Management Lessons from the Global Banking Crisis of 2008. Senior Supervisors Group, 2009: <https://www.sec.gov/news/press/2009/report102109.pdf>

⁵ Overview of Progress in the Implementation of the G20 Recommendations for Strengthening Financial Stability. Financial Stability Board, 2013: http://www.fsb.org/wp-content/uploads/r_130905c.pdf.

⁶ Satoshi Nakamoto. Bitcoin P2P e-cash paper. 2008: <http://article.gmane.org/gmane.comp.cryptography.general/12588/>.

重支出を解決する分散型デジタル通貨について説明しています。2009年1月にクライアントソフトウェアがリリースされた後、最初のビットコインが採掘されました。そのジェネシス・ブロックには不吉な見出しが埋め込まれていました。

「The Times 2009年1月3日 財務大臣、まもなく2回目の銀行救済措置へ」

中央銀行が物議を醸す金銭的介入によって危機のコストを社会化し続けたため、ビットコインのプロトコルは広く普及しました。それに伴い、透明性が高く監査可能でクロスボーダーな暗号化プロトコルによって統一された、非政府系の金融秩序である価値のインターネットという動きが生まれました。それから10年、世間の注目を集める中、ネットワークは猛攻撃を乗り切り、数百万ドルの送金をほぼリアルタイムに決済しています。

価値のインターネットは、次世代の知識のインターネットとなりました。その主眼は非流動的な価値を解き放ち、分散型P2Pネットワークを開発することでその価値を交換することにあります。ブロックチェーン、人工知能、モノのインターネットは、この現実をもたらす、真のグローバル市場を設計するテクノロジーになるでしょう。具体的には、ブロックチェーンは、これまで不可能だった方法で資産を保存および交換できるテクノロジーです。価値のインターネットには、この新しい接続された世界で保存、交換され、その価値を活用できるデジタル資産としてのアイデンティティなど、無形の側面が含まれています。

デジタルマネー

2018年11月に行われた基調講演で、国際通貨基金（IMF）の専務理事であるクリスティーヌ・ラガルド氏は、お金と金融業界が変化している主な理由のいくつかを指摘しました⁷：「新しい風が吹いています。デジタル化の風です。これが鍵となります。お金自体が変化しています。私たちは、より便利でユーザーフレンドリーになり、いくぶん生真面目な感じから遠ざかるかもしれないと予想しています。

ソーシャルメディアと統合され、オンラインおよび個人間での利用（マイクロペイメントを含む）が容易に利用できると期待しています。そしてもちろん、我々はそれが安価かつ安全で、犯罪者やのぞき見から守られると期待しています。銀行預金も新しい形のお金からの圧力を感じています。

中国のAlipayとWeChatから、インドのPayTM、ケニアのM-Pesaまで、電子マネーを提供する新規の決済専門プロバイダを考えてみてください。これらの形態のお金は、デジタル経済を念頭に置いて設計されています。これらは人々が要求するもの、そして経済が必要とするものへの回答です。

ビットコイン、イーサリアム、リップルなどの暗号通貨でさえも、キャッシュレスの世界でスポットを奪い合い、より安定した価値とより迅速で安価な決済を提供することを目指して絶えず改革しています。」

暗号通貨：プログラム可能なお金

ビットコインのジェネシスブロックとその不吉な見出しから5年後、この新たな金融秩序は新しい暗号資産ネットワークによって増強されました。イーサリアム⁸です。ビットコインは金に似た非集権型デジタル通貨の概念に影響を与えましたが、イーサリアムはオープンソースの

⁷ Keynote speech “Winds of Change: The Case for New Digital Currency” by Christine Lagarde, IMF Managing Director at the Singapore Fintech Festival November 14, 2018: <https://www.imf.org/en/News/Articles/2018/11/13/sp111418-winds-of-change-the-case-for-new-digital-currency>.

⁸ Vitalik Buterin. A Next-Generation Smart Contract and Decentralized Application Platform. 2013: <https://github.com/ethereum/wiki/wiki/White-Paper>.

「世界のコンピューター」としての地位を確立しました。これによりビットコインが約束した改ざん不可能なお金は、改ざん不可能なプログラム可能なお金へと拡張され、「スマートコントラクト」の形式で実行可能なロジックが暗号資産に導入されました。

グローバルファイナンスに関連してスマートコントラクトは、透明かつ改ざん不可能なトランザクションを超えて、価値のインターネットの範囲を拡大しました。条件付きロジックに基づくトランザクションは、世界の多くの金融アプリケーションに対応しています。スマートコントラクトには、金融規制の法的効力に訴えることなく、コードを通じて相手方の義務を透明性を持って実施する力があります⁹。

トークン化：プログラム可能な流動性

トークンは、価値のインターネットに固有のデジタル資産クラスです。これらネイティブ資産のプログラミング規則の最初のセットとして、ERC20 標準が開発されました。基本層プロトコルによって発行および保護されたトークンは、基盤となる暗号資産ネットワークの不変性と透明性を活用します。

トークンを発行することで、希少性をデジタル化し、流動性がプログラム可能になり、資本市場を変革させる可能性を秘めています。イニシャル・コイン・オファリング（ICO）は、この変革の最初のヒントであり、公開市場へ流動性を提供し、初期段階のベンチャーキャピタルを民主化します。2017年6月、ICOの総資金はベンチャーキャピタルチャネルを超えました¹⁰。2018年の第1四半期にピークを迎えました（2017年に調達した総資金を上回りました¹¹）。

資金調達への参入障壁を減らす一方で、ICOは投資家、規制当局、技術者などからも厳密な精査の対象となっています。予想通りICOは、詐欺的なベンチャー、ハッカー、ソーシャルエンジニアを引き付けました¹²。伝統的なベンチャーキャピタリストにとって前例のない流動性プレミアムは、短期的および長期的におかしなインセンティブを伴うこととなります。同時に、規制当局、投資家保護機関、および政府は、特別なガイドラインを公開し、マネーロンダリング活動を防止し、これらの新しい暗号資産の発行が既存の証券法に該当するかどうかを見極めるための新しい法律に着手し始めます。

資本市場は変化を続け、トークンは資本市場の機能を変えるだけでなく、価値のインターネットを知識のインターネットと同様に現実のものとする大きな可能性を持つ新しい資産クラスです。

証券化：プログラム可能なコンプライアンス

これらの欠点にもかかわらず、ICOは、膨大な流動性積立金を解き放ち、資本形成を加速する手段として、トークン化の基本的な力を実証しました。トークン化の最初の波は、分散アプリケーション（dApp）インフラストラクチャを強化するために設計されたデジタル資産である、ユーティリティトークンをもたらしました。エコシステム内のサービスへのアクセスを供給するこれらユーティリティトークンは、所有権を付与されず、厳しい監視下に置かれています。

⁹ Nick Szabo. Smart Contracts: Building Blocks for Digital Markets. 1996: http://www.fon.hum.uva.nl/rob/Courses/InformationInSpeech/CDROM/Literature/L0Twinterschool2006/szabo.best.vwh.net/smart_contracts_2.html.

¹⁰ Arjun Kharpal. Initial coin offerings have raised 1.2 billion and now surpass early stage VC funding. 2017: <https://www.cnbc.com/2017/08/09/initial-coin-offerings-surpass-early-stage-venture-capital-funding.html>.

¹¹ David Floyd. 6.3 Billion: 2018 ICO Funding Has Passed 2017's Total. 2018: <https://www.coindesk.com/6-3-billion-2018-ico-funding-already-outpaced-2017/>.

¹² Sherwin Dowlatabadi. Cryptoasset Market Coverage Initiation: Network Creation. Satis Group, 2018: https://research.bloomberg.com/pub/res/d28giW28tf6G7T_Wr77aU0gDgFQ.

ユーティリティトークンの物語は技術者と経済学者の両方から疑問視されていますが、新しい世代のインフラストラクチャ、セキュリティトークンが徐々に出現しています。これらトークンは、暗号資産ネットワークを活用して、分散型金融商品を発行します。ビットコインとイーサリアムが従来の法定通貨と比べられるように、セキュリティトークンは株式、債券およびデリバティブに相当するものです。これまでの一連のユーティリティトークンとは異なり、セキュリティトークンは所有者に有形の権利（株式、配当、投票）を付与し、価値のインターネットと現実の世界との間の格差を埋めます。そこには、デジタル資産の流動性、透明性、グローバルな可用性を実績のある金融商品と統合する能力という潜在的な可能性があります。

これまで私たちは、ユーティリティトークン、支払いトークン、セキュリティトークンの出現を目にしてきました。その分類は司法管轄区によって大きく異なっているものの、発行者と投資家の両方から相互に理解されるトークンの基本要素がそこにはあります。ユーティリティトークンは閉じたエコシステム内で使用され、その内部サービスへのアクセスを提供します。従量課金のトークンとして考えることもできます。このようなトークンは、非常に長い間、アプリ内購入用のオンラインゲームの世界、またはサービスネットワークとしてのソフトウェアのサブスクリプションサービス用に存在していました。セキュリティトークンは、さまざまな権利を伴う可能性のあるデジタル資産です。たとえば、収益に応じて会社から配当や利子を受け取る権利、投票権、所有権などです。さらに、価値のインターネットのプロトコル層が現在構築されているため、未だ発展途上です。当然これらのプロトコルレイヤーネットワークを駆動させるために、純粋なユーティリティトークンが発行されています。ただし、今後の大きな可能性は、価値のインターネットを強化できるセキュリティトークンの幅広いカテゴリに依存します。

セキュリティトークンは、既存の ERC20 コントラクトに似ており、プロトコルレベルでコンプライアンスを規制します。ICO のプログラム可能な流動性をプログラム可能なコンプライアンスで補完します。KYC/AML および規制チェックをスマートコントラクトロジックに直接統合することにより、証券はコンプライアンス違反のリスクなしに、管轄区域を超えて自由に取引できます。

取引所から決済機関、預託機関まで、トークンレベルの執行により資本市場の構造が合理化され、ビットコインやイーサリアムなどの非政府系デジタル通貨に対するグローバルなセキュリティトレーディングが促進されます。グローバルな分散型元帳によって促進された資本市場の新しい構造は、既存の金融システムの壁を破壊し、後付けではなく、デフォルトで透明性が導入されています。

実際、トークン化が可能な資産の範囲には限りがありません。株式公開、債券、商品などの流動性の高い商品は、世界の資本市場へのアクセスを獲得できる立場にあります。しかし、最大の機会は非流動資産にあります。保有期間が長く、所有に対する大きな障壁があるため、トークン化によりアイドル資本が解放され、価格形成が加速されます。商業用および住宅用不動産、初期段階のプライベートエクイティ、アートコレクターは、世界をトークン化する競争から利益を得ることができます。

とりわけ、セキュリティトークンの出現は、価値のインターネットの成熟を表しています。知識のインターネットが今日あるように、価値のインターネットも日常の現実となるでしょう。すべての資産のトークン化は、資本形成を加速し、開かれたネットワークと、透明でオープンで安全なグローバル金融システムへの第一歩を示します。

ブロックチェーンバンキング：プログラム可能なファイナンス

金融セクターは、暗号通貨とブロックチェーンテクノロジーがすでに最も大きな影響を与えている重要な分野の1つです。暗号およびブロックチェーン企業は、数百万の資金を調達し、銀

行口座の開設に苦労しています。暗号資産という新しい資産クラスに出入りして投資を望んでいる投資家は、従来の通貨に交換する方法を見つけるのに苦労しています - 銀行のボトルネックです。スイスの有名なクリプトバレーでは、銀行は多くのブロックチェーン企業に口座を提供したがりません。「銀行は現在、詐欺やマネーロンダリングなどのリスクのために、ICOや暗号通貨への特定の接点を持つ企業のビジネス口座を開設することに消極的です。」¹³

暗号を通じて人々がグローバルな金融取引を行う変化は無視できません。ユーザー間の簡単な送金、商品やサービスへの支払い、または ICO を介したクラウドソースプロジェクトの資金調達など、ブロックチェーンは日々の金融取引に急速に統合されています。

ブロックチェーンバンキングにより、銀行はより迅速かつ正確に支払いを処理できるようになり、トランザクション処理コストと例外的な要件を削減できます。

ブロックチェーンバンキングは、金融業界の広範なスケールを再構築する上で重要です。これは、従来の銀行システムの改良するものです。暗号業界の利点とフィアットバンキングを組み合わせることで、従来の銀行と同様のサービスを提供できます。データと価値を安全に送信するリアルタイムの、オープンソースで信頼できるプラットフォームとして、銀行は支払い処理のコストを削減するだけでなく、新たに重要な収益源を生み出すことができる新製品とサービスを生み出すことができます¹⁴。より透明かつ安全で信頼でき、同時に官僚的ではなく、効率的かつ高速なインフラストラクチャを構築します。

新しい金融秩序

資本市場の転換は、第4次産業革命の不可欠な要素です。¹⁵これはテクノロジーに基づくものですが、物理的、デジタル、生物学的な世界を融合するという学際的な点において根本的に異なっています。価値のインターネットは、知識のインターネットが今日のようにあまねく存在する、新たな現実になるでしょう。価値のインターネット上で運営されるこの将来の世界では、物理的および無形の価値をトークン化して、これらの暗号資産をシームレスに交換、管理、使用し、今日使われるメッセージング、メール、アプリサービスなどのほぼ摩擦のない方法で使用します。

規制上の問題と、次世代の資本市場と連動する価値のインターネットに対応する適切なインフラストラクチャの欠如が、私たちがトークン化暗号資産の爆発とブロックチェーンバンキングサービスの確立を未だ見ることがない主な理由です。

暗号資産は、公的監査能力と前例のない流動性の上に構築された金融システムの可能性を提示します。しかし暗号資産は、ほとんどの既存の金融機関にとって好ましいものとはなっていません。従来の投資家は、この資産クラスからほとんど除外されています。ヘッジファンド、プライベートエクイティ、年金基金、寄付金あるいはHNWエコシステムなどの一般的なリスク回避型の現職者にとって、資産クラスの旨味とは単にその潜在的な可能性だけではありません。同様に重要なのは、資産のエクスポージャー、取引、保管、コンプライアンス、決済、譲渡、

¹³ BANKING BOTTLENECK - Pressure builds on banks to offer Swiss crypto start-ups accounts: <https://www.swissinfo.ch/eng/business/banking-bottleneck-pressure-builds-on-banks-to-offer-swiss-crypto-start-ups-accounts/44230922>.

¹⁴ Accenture - The Future Of Blockchain Banking: <https://www.accenture.com/hk-en/insight-blockchain-technology-how-banks-building-real-time>

¹⁵ The World Economic Forum - The Fourth Industrial Revolution: <https://www.weforum.org/about/the-fourth-industrial-revolution-by-klaus-schwab>.

およびセキュリティを促進するインフラストラクチャの安全性、親しみやすさ、および洗練度です。

古い金融システムと新しい金融システムの間には、まだ好ましい橋渡しが出来ていません。

セキュリティトークンとその他の暗号資産

現在の暗号資産の市場は、スマートコントラクトのないトークン（暗号通貨）とスマートコントラクトトークンで構成されています。この市場は過去1年間で約0.5兆ドルに成長しましたが、他の資産クラスに比べるとまだ小規模です。ただし、規制当局が既存の暗号通貨とトークンを分類するにつれて、市場は成長を続けています。

この新しい資産クラスが注目を集めているのは、トークンの数が劇的に増加していることと、一部のケースでは3桁のパフォーマンスを上げていることが原因です。トークンベースの経済は現在、初期段階のイノベーションへの資金提供において変革をもたらす力として公式に議論されていますが、将来的にはより多くの潜在的なユースケースがあります。今後の資本市場での広範な変革に関する未回答の質問は、「もしも」ではなく「いつ」および「どのように」なのです。

セキュリティトークンがこの変革をリードするでしょう。あらゆる種類の既存資産（フィアット通貨、上場株、非公開株、ローン、債券、不動産、商品、デリバティブ）のトークン化は自然な第1波であると予測しています。従来の資産に裏打ちされたデジタルトークンは、次世代の資本市場の一部となります。暗号資産の発行と、それらを他のデジタル資産と24時間年中無休で摩擦なく交換できる機能は、再設計された資本市場の標準となるでしょう。暗号資産向けに再設計された資本市場の主要要素は次のとおりです。

- 年中無休
- 自動化されたコンプライアンス
- 暗号資産の部分所有権
- 発行、取引、および発行後のコストの削減
- 迅速な取引の決済
- 流動性と市場の深さの増加
- 資産の相互運用性
- 透明性と暗号化プライバシー

従来の私募証券セクターは、過去数年で世界的に急速に成長しています。これは規制上のハードルと発行コストのためにIPOが停滞し、投資家が長引く低金利環境で有意義な投資機会を探し続けたことによるものです。しかし、私募証券の二次取引にはしばしば仲介人が関与し、大きなポジションの流動性には問題があります。これらの私募市場における情報の非対称性、規制リスク、および国境を越えた摩擦は、発行者と投資家の両方を傷つけ、数兆ドル規模の二次民間市場にさらなる障害をもたらします。

私募証券をトークン化することにより、市場には数兆ドルを解き放たれます。現在のところ資本市場構造の非効率性とリスクに対応しサポートすることが出来ずにとどまっている金額です。カウンターパーティのリスクが軽減され、コストが大幅に削減され、透明性によりセキュリティが向上します。このトレンドは、リヒテンシュタインを拠点とするSwarmFundによって既に

提供されています¹⁶。同社ではトークン所有者に、Coinbase、Robinhood、Ripple、Didi などの非公開テック企業に投資する権利を提供しています。

世界の証券貸付市場は 2017 年に 2 兆ドル¹⁷を超えました。銀行は、ブロックチェーンに証券貸付の概念を取り入れています。ING とクレディ・スイスは 2018 年 3 月に初のライブ証券貸付取引を実行しました¹⁸。この伝統ある 2 つの銀行は、2,500 万ユーロ相当のオランダとドイツの政府証券のバスケットを交換しました。通常、証券貸付では、口座間で移動が行われます。ブロックチェーンバンキングでは、デジタル担保レコードを使用して、証券バスケットの所有権を譲渡します。市場参加者は、流動性をより効果的かつ費用効率的に再配分すると同時に、担保チェーンの規制の透明性を高め、取引の巻き戻しを可能にすることで、システムリスクを軽減できます。

人口統計、都市化のトレンド、および新興市場の発展によって成長している従来の資産クラスであるグローバル不動産市場の規模は、217 兆ドルと推定されています。これには、住宅、オフィス、小売スペース、ホテル、およびあらゆる種類の商業用途が含まれます。REIT、ファンド、ETF など直接投資の可能性を超えて、不動産セクターにはさまざまなエクスポージャーを提供する構造が以前からあります。しかし、不動産の最大の部分は「ロックされた」価値であり、実現することはできません。米国のような先進市場でさえも、住宅所有者のロックアップされた価値の一部を実現する唯一の方法は、借金を増やし、リスクを追加する住宅ローンを利用することです。既にいくつかの不動産トークン化ベンチャーは価値を解き放つことに焦点をあて、再設計された資本市場のすべての要素を不動産の利害関係者にもたらしめています。

グローバル商品市場は、特に出所と信頼性に関連する非効率さを有した大規模な資産クラスです。商品のトークン化は、資産に裏打ちされた初期トークンベンチャーの 1 つです。代替投資クラスとしての金担保トークンとダイヤモンドは、2 つの例です。

世界の株式市場の時価総額は、73 兆ドルに相当します。上場証券をトークン化する理由はないと主張する人もいるでしょう。明らかに、プライベート金融証券のトークン化とスワップやオプションなどの OTC オフバランスシート構造の影響は大きくなります。ただし、上場有価証券のトークン化は、グローバルにビジネスを展開する企業やグローバルに拡大したい企業の小規模な資本化証券から始まるでしょう。

今日の銀行の変革

新しい金融テクノロジーは、以前は実用的でなかった市場を開放し、顧客の期待を高めています。顧客は、個人のクライアントも企業のクライアントも、カスタマイズされた製品、優れたユーザーエクスペリエンス、シンプルで高速な完全デジタルサービスを求めています。しかし、ほとんどの銀行とその技術は、この世界にあまり適していません。銀行や金融機関は、十分な速度で製品を構築、発表、変更することができません。これにより、急速に変化する市場では銀行やその他の現職者が変革、競争、差別化することが難しくなります。

機関投資家参入の障壁

資産クラスの基礎となる価値に目を向ける際に、機関投資家のエクスポージャーの根拠を示すことは比較的簡単です。最近のある研究では、標準ポートフォリオ最適化ツールに注目してエクスポージャーを正当化し、1.3%がビットコインの最適な割り当てであると定義づけました

¹⁶ Swarm Fund: <https://www.swarm.fund/>

¹⁷ Securities lending market rising amid global market growth: <https://www.pionline.com/article/20170314/ONLINE/170319956/securities-lending-market-rising-amid-global-market-growth>.

¹⁸ ING, Credit Suisse break new ground in test of distributed ledger technology: <https://www.americanbanker.com/news/ing-credit-suisse-break-new-ground-in-test-of-distributed-ledger-r3>.

¹⁹。トムソン・ロイターの別の調査では、機関投資家の 5 人に 1 人以上が暗号資産のエクスポージャーに関心を持っているという事実が強調されました²⁰。しかし、実際に参入を正当化することははるかに困難です。意思決定者は、断片化され、法的に不確かな未開発の市場に飛び込む必要があります。既存の市場構造にはこのインフラストラクチャが欠けており、従来の資産管理の基本的かつ重要な要件の一部が欠けています。

- 従来の金融市場と価値のインターネットとの間の橋渡しをサポートするインフラストラクチャは、ひどく未発達のままです。
- 従来の資産預託機関や保管銀行を模倣するサードパーティの保管ソリューションは初期段階にあり、機関投資家が必要とする柔軟性を欠く
- 十分な流動性を備えたフィアットオンランプは、規制されている少数のプラットフォームに限られ、暗号資産の取引量の大部分は、規制されていない取引所間で断片化されている
- 取引所と Tether のような第一世代のステーブルコインプロバイダー間の深いカウンターパーティリスク²¹
- 通常の暗号資産とセキュリティトークン両方における規制上の不確実性により、コンプライアンス上大きなコストを伴い、従来の投資家の負担となる

暗号資産 - 管理ソリューションの欠如

資本市場が機能するためには、安全な管理が前提条件です。金融商品の所有には、資産管理に関連するオペレーショナルリスクを受け入れる責任がある事業者が必要です。オーナーとホルダーは同じではないこと、それはカストディアン銀行により明らかになります。カストディアン銀行とは、クライアント資産の保護のみを担当する専門機関です。カストディアン銀行は、従来の銀行サービスおよび投資銀行サービスを厳格に回避し、システミックリスクから保護され、100%の準備金を維持します。2018 年 5 月現在、米国の大手 4 大カストディアン銀行の預かり資産は、114 兆ドルを超えています²²。

暗号資産を保有する懸念は、従来の金融を超える複雑さをもたらします。中央証券保管所 (CSD) は、しばしばカストディアン銀行によって提供されますが、株式や債券を含む金融商品を預けるための中心となる場所です。CSD によって保護されている証明書は、破壊、盗難、または紛失のリスクから保護されています。ですが、適切な取引先が証明書をいつでも再発行できるため、損失が発生しても悲観することはありません。これは、カウンターパーティがカスタマーサポートデスクまたは本社のない分散型で改ざん不能のグローバル台帳である暗号資産の場合はあてはまりません。

暗号資産は、物理的な金のように、所有権がカウンターパーティのリスクを伴わない数少ない資産の 1 つです。暗号資産ネットワークは、暗号公開鍵によって有効化される分散アカウントを可能にします。所有するのは、公開アカウントを「ロック解除」する秘密鍵の直接的な知識

¹⁹ Jim Liew and Levar Hewlett. The Case for Bitcoin for Institutional Investors: Bubble Investing or Fundamentally Sound? Johns Hopkins Carey Business School, 2017: https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3082808

²⁰ Tommy Wilkes. One in five financial institutions consider cryptocurrency trading, survey says. 2018: <https://www.reuters.com/article/us-crypto-currencies-survey/one-in-five-financial-institutions-consider-cryptocurrency-trading-survey-says-idUSKBN1HVOS4>

²¹ Tether Stablecoin <https://tether.to>

²² Largest Custody Banks Overcome Industry Headwinds To See Further Growth. 2018: <https://www.forbes.com/sites/greatspeculations/2018/05/18/largest-custody-banks-overcome-industry-headwinds-to-see-further-growth/#136b3094363b>

とコントロールです。秘密鍵をなくすことは、デジタル資産が永久に失われることを意味します。企業にとって、秘密鍵の管理は重大な運用リスクを表します。

早期導入者とサイファーパンクは「自分の銀行となる」自由を告げる一方で、管理の方法論を確立していない大量の金融資産を管理する責任は、組織の現職者を思いとどまらせます。さらに、管理における重要な部分は、カスタディアンの信頼と評判です。暗号資産は信頼のない経済関係を可能にしますが、機関投資家の参入には最終的に信頼できる管理者が必要になります。企業レベルの信頼がなければ、古い金融システムと新しい金融システムは分裂したままです。

既存取引所の状況

既存取引所の状況は、法的に曖昧で断片的なエコシステムとなっています。多様なセキュリティおよび運用基準を備えた新市場である暗号資産取引所は小売を中心としており、企業のオンボーディングに必要な主要な要件を欠いています。これらの取引所は注文が薄い（暗号資産の流動性におけるより一般的な問題）だけでなく、多くの場合、管轄区域の明確さが欠けています。機関投資家のトレーディングデスクは、信頼できる評判を持つ馴染みのある流通市場によって促進されますが、暗号資産の取引には、大きな不確実性とカウンターパーティリスクが伴います。

2018年6月現在、CoinMarketCapには200を超える暗号通貨取引所がリストされており²³、Bitcoin.comでは500を超える取引所とブローカーをレポートしています²⁴。取引の大半は上位20の取引所に集中しており、一部はデジタル通貨ビットコインとイーサリアム（フィアットオンランプはありません）建てで、その他はUSDやKRWなどの主権通貨に固定されています。

取引所の規制状況を評価することは困難です。多くの場合、これらのプラットフォームは実質的に管轄外です。厳しいコンプライアンスと受託者の要件により、これは企業にとって可能なオンボーディングの範囲を劇的に制限します。さらに、取引所は事実上のカスタディアンとして機能します。トレーダーはしばしば保有額の一部を取引所ウォレットに保管するからです。著名な取引所がカスタディアンとしての地位と認識を欠いているだけでなく、セキュリティ侵害の広範な歴史が運用上のセキュリティ慣行に影を落としています。これら取引所の信頼性の低さは、頻繁なウォッシュ取引の報告、不正な取引量²⁵、および利益相反行為²⁶を考慮すれば驚くことではありません。

この不確実な状況にもかかわらず、暗号資産取引市場の成長の可能性には議論の余地がありません。「需要側」では、既存の取引所には企業レベルのサービスがなく、ほぼ完全に小売顧客に焦点を当てています。「供給側」では、取引可能なトークンの成長は事実上制限されており、カンブリア紀の爆発に似ています。現在、取引量の18%以上を処理していると言われていたBinanceを過去に小売を席巻するに至った経緯は、セキュリティトークンがなくても暗号資産取引の巨大さを捉えています。

業界が次の既存企業の波として成熟するにつれて、同様の成長ダイナミクスが完全に可能になり、制度化への転換がもたらされます。CircleがPoloniexを買収し、取引所を代替取引システム（ATS）として登録することに注力していることは、既存の小売中心のプラットフォームと、規制に準拠した機関取引所とのコントラストを思い起こさせます。前者は法的に定義され

²³ Coinmarketcap (CMC): www.coinmarketcap.com

²⁴ Kai Sedgwick. The Number of Cryptocurrency Exchanges Has Exploded. 2018: <https://news.bitcoin.com/the-number-of-cryptocurrency-exchanges-has-exploded>

²⁵ Sylvain Ribes. Chasing fake volume: a crypto-plague. 2018: <https://medium.com/@sylvainartplayribes/chasing-fake-volume-a-crypto-plague-eala3c1e0b5e>

²⁶ Leigh Cuen. A Tangled Web: Will Coinbase Ventures Lead to Conflicts of Interest? 2018: <https://www.coindesk.com/coinbase-ventures-conflicts-of-interest>

ていない状況で運営されていますが、後者は伝統的な投資家の規制、コンプライアンス、保管基準を満たす製品を徐々にまとめることに焦点を合わせなければなりません。

ステーブルコイン - デジタル・セーフ・ヘイブン

伝統的な市場の投資家やトレーダーにとって、セーフハーバー資産はポートフォリオ管理にとって重要です。評価額が 8 兆ドルに近い最も流動性の高い資産クラスであるソブリン通貨は、ポートフォリオのリバランスとリスク管理の主要な媒体として機能します。これは、非常に不安定で流動性の低い暗号資産とは相反します。評価に大きな差があるため、企業が採用するには、ソブリン通貨に固定され価格が安定したデジタル資産が必要です。

一部の従来型通貨または通貨のバスケットで部分的または完全に担保されているトークンは、すでに発行されており、成長しています。これらは、フィアット通貨など従来の比較的安定した資産に支えられているため、「ステーブルコイン」として铸造されています。今日実装されている大部分は、機関投資家には受け入れられないリスクを抱えています。評価額が 20 億ドルを超える最大規模の Tether は、市場で最も流動性の高いオプションです。完全に予約されたと言われるトークンとして、Tether は、発行されたすべてのトークンが USD と 1 対 1 で裏付けられるという期待に基づいて取引を行います。今日まで、Tether の銀行との関係は不明確です²⁷。フルリザーブのステータスを証明する公式の検証監査は公開されていません²⁸。これは、重要なカウンターパーティおよび管轄外のリスクを提示し、潜在的な既存企業が以前に考慮されていたよりもリスクの高い資産へのエクスポージャーを抑止することとなります。

Tether がステーブルコインの状況を支配しているため、新しい実装では、金融理論を暗号プロトコルに直接埋め込むことで、カウンターパーティのリスクを排除しようとしています。Tether は、「ボラティリティの高い価格変動」なしにブロックチェーンに依存するデジタル通貨を提供することを目的とした、ステーブルコインの最初のカテゴリと見なすことができます。²⁹

ステーブルコインの第 2 のカテゴリはアルゴリズムのみに基づいている一方、その他の通貨では、法定通貨に対するペグを維持するために、フィアット以外の担保メカニズムを追加するアプローチを組み合わせています。Basis³⁰と Havven³¹は自立した「中央銀行」を構築して、通貨供給を操作しペグを維持します。ただし、アルゴリズム型ステーブルコインは、極端な市場条件に直面しても回復力を示し広く採用されるまで、機関投資家の資本を引き付ける可能性は低いでしょう。

ステーブルコインの 3 番目のカテゴリは、透明性とセキュリティを高めることを目的とする、米ドルやユーロなどのフィアット通貨に裏打ちされたフィアット担保型トークンです。このカテゴリの現在の市場参加者は TueUSD³²、Stasis Foundation の EUR s³³、Circle の USDC³⁴ などです。これらのステーブルコインは詳細な監査をリリースし、法定銀行口座やその他の主要な指標による裏付けを示します。

フィアット担保型ステーブルコインは、フィアットのオン/オフランプとして機能し、フィアット通貨に固定された安定した価格を提供し、直感的に理解できます。いくつかのアルゴリズム

²⁷ BitMEX Research. Tether: New financial data released by Puerto Rico. 2018: <https://blog.bitmex.com/tether-addendum-new-financial-data-released-from-puerto-rico>

²⁸ Matthew Leising. Tether Hired Former FBI Director's Law Firm to Vet Finances. 2018: <https://www.bloomberg.com/news/articles/2018-06-20/tether-hired-former-fbi-director-s-law-firm-to-vet-finances>

²⁹ Tether Whitepaper 2014: <https://tether.to/wp-content/uploads/2016/06/TetherWhitePaper.pdf>

³⁰ Basis Website: <https://www.basis.io>

³¹ Havven Website: <https://havven.io>

³² The Trust Token Website: <https://www.trusttoken.com/trueusd/>

³³ Stasis Foundation EUR: <https://stasis.net/>

³⁴ USDC By Circle: <https://www.circle.com/en/usdc>

ム型ステーブルコインのペグの破綻により、機関投資家はこれらの資産をフィアットペッグのステーブルコインのように低リスクとみなすことが難しくなりました。

2019年2月、JPモルガンは支払い用のデジタルコインを発表しました。JPモルガンは米国の銀行として初めて、フィアット通貨に代わるデジタルコインを作成し、テストに成功しました。JPMコインはブロックチェーンベースのテクノロジーに基づいており、機関口座間での支払いを即座に転送できます³⁵。JPMコインは、特定の市場セグメント（金融機関と銀行）を対象とする4番目のステーブルコインのカテゴリとして定義できます。JPMコインは、JPモルガンのクライアントアカウントからの準備金に支えられ、当初は米ドルに制限される可能性があります。理論的には、貸借対照表上の任意の通貨に拡張が可能です³⁶。

ステーブルコインはブロックチェーンテクノロジー時代の基本的なインフラストラクチャを提供し、グローバルな分散型デジタル通貨を可能にし、ブロックチェーンバンキングに新たな力を与えます。

規制の欠如

規制の不確実性に悩まされ、金融革新の最前線である暗号資産の爆発的な勢いにより、政府は遅れを取りました。数学的コンセンサスによって管理されるネットワークの出現は、デジタルな希少性を可能にするという独特の結果をもたらしました。分散型仮想商品が急増するにつれて、世界中の規制当局は、その性質と既存の法的枠組みの適用可能性を理解しようと急いでいます。暗号資産の分類は単純ではなく、セキュリティ、商品、通貨の境界が明確に定義されていない、まったく新しい資産クラスの出現を示唆しています。

予想通り、暗号資産を分類することの難しさは、西側世界のほとんどで停滞をもたらし、規制ガイダンスの必要性を強調しています。政府は厳しい立場にあり、明確な政策と革新および技術的進歩のバランスをとる綱渡りを歩んでいます。寛大すぎれば詐欺は罰せられません。あまりにも制約されればイノベーションが妨げられ、頭脳の流出と司法の裁定が促進されてしまいます。

規制の不確実性による不幸な副作用は、暗号資産の分野における機関運営者の妨げとなります。従来型金融は空白を嫌い、規制の欠如は法的な制約よりも明確に良くないものです。後者の場合、フレームワークは明確であり、境界が定義されており、規制への反応の可能性は限定的です。前者では、既存の法律の主観的な解釈に基づいて決定を下す必要があります。見誤った場合、これまでにない下振れリスクの可能性を開きます。

機関投資家にコンプライアンスのハンドブックを提供する一貫した法的枠組みがなければ、これらの機関投資家が新しい資産クラスを完全に受け入れることは困難です。

暗号資産に対する機関グレードの需要

最近のレポートのいくつかは、新興のデジタル資産クラスにおいて個人投資家を超える大きな関心を強調しています。Research Tabb Groupは5月、2018年は「デジタル通貨が「制度化」する年であるが、取引リスクによって抑制的である」と報告しています。暗号通貨市場を大きな収入と収益率の機会と見ているにもかかわらず³⁷。

³⁵ J.P. Morgan Creates Digital Coin for Payments; <https://www.jpmorgan.com/global/news/digital-coin-payments>

³⁶ JPM Coin Analysis by Binance Research; <https://info.binance.com/en/research/marketresearch/jpmcoin.html>

³⁷ Cryptocurrency market starting to attract institutional investors:

<https://www.institutionalassetmanager.co.uk/2018/05/17/264330/cryptocurrency-market-starting-attract-institutional-investors>

年金基金、ソブリンウェルス基金、資産運用会社、ヘッジファンド、その他の大規模な資産所有者は、130 兆米ドルを超えています。そして最近の学術研究によれば³⁸、ビットコインに対する投資割合は低調です。この研究では標準的なポートフォリオ最適化ツールを使用して、BTC への最適な配分を 1.3%として計算して物議をかもしました。これは BTC のみでも 1.7 兆ドルに相当します。

現在、機関投資家、ヘッジファンド、ファミリーオフィス、およびHNW投資家は間接的にごく少ない割合を暗号資産に配分する方法しかありません。例えば、CME およびCBOEなどのBTC先物取引、あるいはスウェーデン・ビットコイン・トラッカー（COINXBT：SS）や米国投資家向けのビットコイン・インベストメント・トラスト（GBTC³⁹）などの指標連動証券（ETN）、またはSwissquote Bitcoin CertificatesやLeonteq社のEtherやLitecoinトラッカーなどの仕組債です。上場した特別目的事業体（SPV）も選択肢です。例えばカナダのHive Technologies（HIVE：V）などの暗号マイニングファーム、Canadian Global Blockchain Technologies（BLOC/;CN）のような上場投資仕組債への投資を行うことができます。

ただし、これらの投資ビークルはすべて、追加のリスク、追加のコストを伴うデリバティブ構造であり、しばしば過大評価されます。たとえば、CME ビットコイン先物のボリュームは比較的安く、1日5契約（ユニットサイズは5BTC）から最近4,000契約まで変動し、4月下旬に8,800でピークに達しており、流動性は安定していません。これらの先物は米ドルで決済され、ゴールドマン・サックスとモルガン・スタンレーのみがこれらの取引を清算することに同意しています。12.6億ドルの運用資産（AUM）を持つビットコイン投資信託は、67%近くの巨大なプレミアムで取引されています。

問題は、これらのビークルのほとんどが間接的なエクスポージャーを提供しており、機関投資家の一部のニッチにしか応えていないことです。機関グレードの需要は増え続けていますが、大規模な業界全体のエクスポージャーに向けたインフラストラクチャは未開発のままです。Bakkt⁴⁰を含む、現在構築中のその他の注目すべきインフラストラクチャもあります。これは物理的に決済するビットコイン先物ですが、ほとんどの既存の商品は追加のリスクとコストの両方を伴うデリバティブ構造です。

暗号通貨のボラティリティ（現在、最大のデジタル資産クラス）にもかかわらず、新興デジタル資産クラスに対して大規模な資本からも関心が高まっています。これらの暗号資産を保存するためのセキュリティの課題に対処し、完全に規制されたサービスを使用してデジタル資産を交換できれば、そのような資本を妨げる大きな障害はなくなります。

ゴールドマン・サックスによると⁴¹、現在の暗号通貨市場構造は非常に細分化されており、顧客は取引所に対してカウンターパーティのリスクを負っています。これは規制されていない純粋な暗号通貨であることが多く、したがって財務および税の報告、保管の手配、および高い品質のデータを必要とする専門家は取引できません。

管理、コンプライアンス、セキュリティ、信頼性の高いデータ、安定性、クライアントサービス、および流動性は、引き続き現行組織にとって重要な障害となります。これらの根底にある問題点が内部から新しいエコシステムによってまとまってサービスされるようになるまで、この機関レベルの需要が大規模な投資に発展することは困難です。機関グレードの製品は、製品

³⁸ The Case for Bitcoin for Institutional Investors: Bubble Investing or Fundamentally Sound?: https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3082808

³⁹ CNBC: <https://www.cnbc.com/quotes/?symbol=GBTC>

⁴⁰ Bakkt Corporate Website: <https://www.bakkt.com>

⁴¹ Business Insider “Goldman Sachs: This is the main barrier stopping institutional investment in cryptocurrency” : <https://www.businessinsider.com.au/bitcoin-cryptocurrency-goldman-barrier-institutional-investors-2018-2>

または規制およびコンプライアンスだけでなく、古い金融システムと新しい金融システムの間
の橋渡しが必要とされています。

リヒテンシュタイン公国 - 暗号国家？

リヒテンシュタインは、ヨーロッパの中心にあり、スイス、オーストリア、ドイツの間に位置する世界で6番目に小さい国家です。リヒテンシュタインは、世界的な影響力を持つ強力な金融業界で知られており、最近ではブロックチェーンの最も有名なハブの1つになりました。LCXは、本部および管轄地域としてリヒテンシュタインを戦略的に選択しました。規制の明確さと開放性に照らして、リヒテンシュタインは、価値のインターネットに準拠できる制度上のゲートウェイとして、また新しい金融秩序の触媒として機能します。

リヒテンシュタインの首相、エイドリアン・ハスラーは、暗号資産市場の進化において先駆的な役割を果たし続けています⁴²。Coindeskとのインタビューで、ハスラー首相は規制の明確化の重要性を強調しました⁴³。

「ブロックチェーン経済に対して、過剰で実用的な関連性に欠ける規制を作成する意味はありません。規制の外で発展してしまうからです。これは確かにどの国の利益にもならないでしょう。したがって、必要な法の確実性と信頼性を作成する国家の役割が有効となる、この法律による賢明な規制アプローチを提案したいと思います。」

ブロックチェーン法

リヒテンシュタイン政府は、2018年6月21日に「ブロックチェーン法」を発表しました。法案の精神は、暗号資産とブロックチェーン技術を採用することです。最初のバージョンは、基本的な立法フレームワークの複雑さを詳述した80ページ以上の書面で発表されました。オープン性と明確性の両方に関するこのビジョンを要約すると、2018年8月29日のリヒテンシュタイン政府からの公式プレスリリースはこう読めます⁴⁴。

「ブロックチェーンシステム上の要素の法的分類は、この提案のもう1つの焦点です。ブロックチェーン法は、「トークン」という用語を、法的確実性を確保しながら「現実」の世界をブロックチェーンシステムに変換できる新しい構成体と定義し、トークン経済の完全なる適用への可能性を開きます。リヒテンシュタイン法における「トークン」の法的構造の導入は、所有権、保有、譲渡などの法的結果も法的に定義する必要があります。」

リヒテンシュタインは、暗号資産規制の欧州および国際的なリーダーとしての地位を確立しており、金融機関、認定投資家、ウェルスマネージャー、ファミリーオフィス、富裕層投資家がこの資産クラスを採用する道を開いています。国のコンプライアンスに対する国際的な評判を考えると、ブロックチェーン法は暗号資産とブロックチェーン業界に確実性をもたらします。

リヒテンシュタインはAAA格付け国⁴⁵として、ブロックチェーンのイノベーターと暗号資産の資本形成に対応することにより、価値のインターネットの開発に取り組んでいます。

- リヒテンシュタインの金融市場局（FMA）は、今年、暗号資産のための3つの代替投資基金、Incrementum Crypto One Fund、Postera Fund、およびCoinlab Digital Asset Fundを既に承認しました

⁴² John Griffin and Levar Hewlett. Liechtenstein plays a pioneering role in government regulation of the crypto-financial market. PwC, 2018: <https://www.pwc.ch/en/publications/2018/crypto-liechtenstein.pdf>

⁴³ Annaliese Milano. Liechtenstein to Avoid 'Excessive' Blockchain Regulation: Prime Minister. 2018: <https://www.coindesk.com/liechtenstein-to-avoid-excessive-blockchain-regulation-says-prime-minister/>

⁴⁴ Liechtenstein preparing Blockchain Act. 2018: <https://www.liechtenstein.li/en/news-detail/article/liechtenstein-preparing-blockchain-act>

⁴⁵ Niklas Steinert and Thomas Fischinger. Liechtenstein 'AAA/A-1' Ratings Affirmed; Outlook Stable. Standard and Poor's, 2018: <http://www.regierung.li/media/attachments/RatingsDirect-ResearchUpdateLiechtensteinJun-01-2018-636643303137038761.PDF?t=636707401115149506>

- リヒテンシュタイン政府は、すべての管理プロセスにブロックチェーン技術を採用することを約束しています
- リヒテンシュタイン皇太子、アロイス・フィリップ・マリア・フォン・ウント・ズ・リヒテンシュタインは、富を解き放つための強力な方法としてブロックチェーンテクノロジーに繰り返し関心を示してきました⁴⁶

ブロックチェーン法は、あらゆる変換可能な資産をデジタル資産に変換するための法的基盤を作成する法的手段としてトークンを定義しています。さらに、法律は主要な役割を定義し、ブロックチェーン業界のサービスの新しい標準を設定しています。この規制によって、サービスプロバイダーが破産した場合にトークンと秘密鍵を保護する要素もカバーし、サービスプロバイダーの最小基準を定義し、規制当局（FMA）によるサービスプロバイダーの恒久的な監督のルールを作成します。

⁴⁶ Annaliese Milano. The Crown Prince of Liechtenstein Wants to Invest in Crypto. 2018: <https://www.coindesk.com/the-crown-prince-of-liechtenstein-wants-to-invest-in-crypto/>

LCX – 新しい金融世界へ向けたブロックチェーン銀行

LCX は新たな銀行のカテゴリを生み出します：

- 透明性と報告のための新しい基準を導入し**安全**
- 顧客中心のクライアントエクスペリエンスを提供する**技術主導型**
- **暗号資産**に焦点を当てながらも**従来の銀行サービス**を完全に提供

LCX は、暗号市場と従来の金融市場の間で資産をシームレスに移動できるようにしたいと考えています。LCX は、業界をリードする暗号資産金融商品およびサービスを提供します。技術主導型の銀行として、LCX は、暗号通貨とトークン化資産の成長から生じる機会を最大限に活用するために、従来型市場と暗号市場の参加者双方を支援することに重点を置いています。

リヒテンシュタインのファドーツに本社を置く LCX は、2018 年 11 月にビジネス取引ライセンスを取得しています⁴⁷。現在リヒテンシュタイン金融市場局（FMA）にフルバンキングライセンスを申請しています。これにより、LCX は包括的な銀行サービスを提供できます。

LCX ではグローバルな経済改革とファイナンシャル・インクルージョンを喚起するために、金融機関とプロの投資家に対しブロックチェーンが持つポテンシャルの理解を支援することにより、暗号商品の採用を促進します。

LCX の哲学

LCX はリヒテンシュタイン暗号資産取引所の略語ですが、LCX は暗号取引所以上のものであり、LCX は従来の銀行以上のものです。LCX は、フィアット資産、暗号資産、および従来の資産に関する全体的な見方を促進する銀行業の新しいカテゴリリーダーを構築しています。私たちの志は、持続可能な何かを構築することです。短期的な成功を示すことができるだけでなく、長期的な戦略を達成するために、今後 5、10、50 年の戦略とビジョンを作成します。

LCX はテクノロジー企業であり、次の原則に取り組んでいます。

- **セキュリティ** LCX のインフラストラクチャを保護するために、最高のセキュリティ標準、プロセス、およびテクノロジーを実装します。
- **透明性** 財務の監視、報告、マネーロンダリング防止（AML）および顧客本人確認（KYC）規制の新しい基準を設定します。
- **バリュー** 新しい金融業界全体で価値を創造しながら、顧客のニーズに焦点を合わせることで、顧客の価値を創造します。

LCX の企業文化と企業価値は、顧客中心アプローチの必要性、市場または技術の変化に迅速に適応する能力、および優れた何かを構築するという志を反映しています。

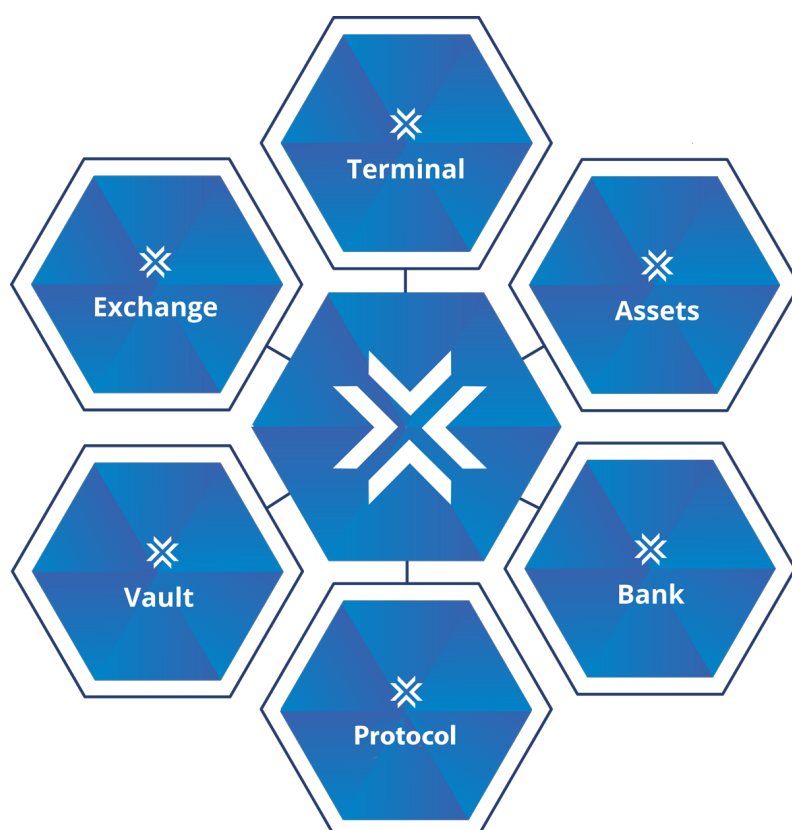
- **顧客重視** 第一に考えます。
- **学ぶ好奇心**を持ちます。
- **反映結果**を提供します。
- **簡素化**行動します。
- **定説を壊す**伝説を作ります。

⁴⁷ LCX receives business license <https://medium.com/lcx/lcx-liechtenstein-cryptoassets-exchange-receives-business-license-6bd732ea4f3f>

LCX - 製品とサービス

LCX は、ブロックチェーンバンキングの新しいカテゴリリーダーになるべく、暗号通貨とフィアット通貨の金融エコシステムを構築しています。これは、以下に概説するよういくつかの重要な要素を組み合わせることによってのみ達成できます。

- **LCX Bank** - プライベートクリプトバンキングも提供しつつも、コーポレートバンキングに焦点を合わせた完全な銀行ライセンスを持つブロックチェーンバンクになることを目指しています
- **LCX Terminal** - 複数のプラットフォーム間で完全な暗号資産取引ライフサイクルを管理する洗練された取引デスクです
- **LCX Exchange** - 暗号資産とセキュリティトークン取引のための取引所と市場の立ち上げを目指しています
- **LCX Assets** - さまざまなトークン化金融資産を発行し、セキュリティトークンを提供する、フィアット資産と暗号資産の資産管理
- **LCX Vault** - 機関グレードのカストディアンソリューション
- **LCX Protocol** - 分散型コンプライアンスプロトコル、「リヒテンシュタインプロトコル」としても知られ、セキュリティトークンがブロックチェーンで発行および取引される方法を標準化します



最終的に、LCX の製品、サービス、およびパートナーシップのスイートは、業界に成熟をもたらし、資産クラスを受け入れるために必要な厳格なセキュリティおよびコンプライアンスの要件を機関クライアントに提供します。

LCX Bank

LCX は、コーポレートバンキングに重点を置き、企業および個人向けのトランザクションバンキングを提供します。LCX は、従来の銀行サービスを拡大し、今後、貸付およびその他の金融商品を実装する予定です。



LCX は、暗号通貨による支払いの効率性と従来の法定通貨口座の一般的な受け入れを世界規模で組み合わせることにより、比類なきバリュー、柔軟性、およびトランザクション速度を提供します。LCX は、いつでも、どこでも、暗号通貨または従来の通貨での支払いを可能にします。メインユーザーインターフェース上で、フィアットと暗号（およびその中の任意の組み合わせ）間での交換を行えます。

LCX は、個人用または法人用のマルチ通貨アカウントを設定します。LCX のハイブリッドアプローチにより、1 つのシンプルな銀行インターフェースで暗号通貨口座とフィアット通貨口座を保持および管理できます。

LCX のコアバンキングシステムは構成可能な API 対応エコシステムをサポートするクラウドネイティブソフトウェアです。このユニークなコアバンキングソリューションにより、LCX は銀行ではなくテック企業のように動作するようになります。

LCX はクラウドネイティブであるため、次のことが可能です。

- **アジャイル** - 数年ではなく数週間/数か月での実装。
- **フレキシブル** - 数日で製品/機能を変更し、最高の技術を活用します。
- **スケーラブル** - 成長し変化するビジネスニーズを満たすことができます。
- **完全デジタル** - API 駆動のアーキテクチャ、構成可能なクラウドネイティブソリューション。
- **革新的** - 高度に設定可能なため、カスタマイズする必要がなく、モジュラー環境を構築し、最善の外部モジュールを統合できます。

LCX Terminal

LCX Terminal は、クロスプラットフォーム暗号資産取引のためのデジタルデスクを提供します。LCX ターミナルは、暗号通貨取引所と連動してデジタル資産取引のエクスペリエンスを統一し、次の統合サポートを提供します。



- 高度な暗号取引デスク：すべての主要暗号取引所との取引が単一のインターフェース内で可能です。
- 現時点では 10 の取引所に接続されており、追加の取引所は今後展開予定です。
- こちらで登録できます。 www.LCX.com/terminal

このプラットフォームは、統合ゲートウェイとして、暗号資産取引を簡素化および強化するために一連のクロス交換ツールを導入しています。

- 統一されたインターフェース - 単一のインターフェースを介したマルチエクスチェンジ取引
- パフォーマンスの確認 - リアルタイムに利益/損失を監視
- ポートフォリオ管理 - 統合されたポートフォリオ追跡と投資分析
- 自動取引ツール - 取引所間裁定ボット、機械学習により可能になったカスタム取引ボット
- ストラテジーマーケット - 取引アルゴリズムの市場、ポートフォリオマッチング
- 暗号資産データフィード - カスタマイズ可能な価格統計

LCX Terminal は高度なシミュレーションモデルを統合して、既存の暗号通貨取引所からの履歴価格データに対する取引戦略のバックテストを容易にします。バックテストに成功したモデルは、ストラテジーマーケットで収益化できます。

LCX Exchange

LCX は、セキュリティトークンおよびその他暗号資産向けの洗練された取引プラットフォームを構築しています。リヒテンシュタインプロトコルを活用したLCXは、機関投資家の厳格な要件（保管、コンプライアンス、安定性、透明性、監査可能性）を満たすように設計されています。



LCX Exchange は、高性能のマッチングエンジンと安全なバックエンドを備えたスケーラブルなインフラストラクチャ上に構築されます。LCX のプラットフォームは、プロの投資家のニーズに合わせた世界クラスの安定性とサービス品質を提供します。LCX 管理ソリューション、分析ツールなど、さまざまなレポート機能が組み込まれます。取引インターフェースは、英語に対応しており、ドイツ語や中国語などの他言語は後日対応予定です。追加言語は、徐々に増える予定です。

LCX Exchange はいくつかのフェーズで展開され、最初にさまざまな暗号資産をリストし、その後セキュリティトークンを上場します。セキュリティトークンの上場は、国際金融市場の規制に従っており、最終承認後に開始されます。

高度な取引ツール

LCX のマッチングエンジンは、指値注文、成行注文、ストップロス注文、およびワンキャンセルアザー（OCO）注文を含むその他の高度な注文タイプをサポートします。LCX は取引とパフォーマンスの完全な記録を提供し、顧客が視覚的および分析的なツールを使用してデータをソート、分析、視覚化できるようにします。LCX レポートは CSV と API を介して利用でき、デイトレーダーや長期投資家から大規模な金融機関まで、さまざまなクライアントの要件とニーズに対応します。

ポートフォリオ管理

LCX のレポートメカニズムは以下を統合します。

- 計算ツール - 取引ごとの損益、期間、デジタル資産の種類と量
- ポートフォリオ視覚化 - デジタル資産、時価総額、残高、実現および未実現の利益/損失
- 自動化された税務 - 税務書類を自動的に作成する、すべての取引の詳細なログ
- キャピタルゲインレポート - 会計士および税務署向けに準備された形式
- 監査レポート - 独自の監査ニーズを要求する可能性のある機関顧客向け
- レポートのエクスポート - すべてのレポートデータの CSV および PDF のダウンロード

これらの高度なレポートシステムは、大量のユーザーデータを生成します。LCX は、すべての機密ユーザーデータが銀行レベルの暗号化で保存されるように、いくつかのデータレイヤーに転送暗号方式を実装します。

LCX Assets

LCX はさまざまなトークン化金融資産を発行し、セキュリティトークンを提供する、フィアット資産と暗号資産の資産管理を行います。



さらに、LCX はセキュリティトークンの提供を主導し、トークン化された複数の金融資産を発行することが出来ます。

LCX は、既存の金融商品の欠点に対処するために、伝統ある銀行および監査パートナーと提携しています。LCX は、独自の暗号資産バックリング方式と、非常に安全で透明性ある運用プロセスを開発しています。

LCX Vault

LCX は、顧客に暗号通貨のカストディアンサービスを提供します。LCX Vault は、システムにシームレスに統合され、専用の高度に保護されたコールドウォレットを他のテクノロジーソリューションと組み合わせて使用します。



さらに、LCX は大手暗号管理会社の Ledger と提携しています。LCX は既にカスタマイズされたカストディアンソリューションを使用しており、LCX のクライアントにもシステムを実装します。Ledger は、暗号資産を保存する安全なハードウェアのマーケットリーダーであり、LCX は Ledger と緊密に連携し、機関グレードのカストディアンソリューションを実装することを決定しました。

LCX Vault は、クライアントにエンドツーエンドのセキュリティソリューションと運用サービスを提供する一方で、クライアントが常に秘密鍵のコントロールを維持できるようにします。

LCX の高度な暗号ウォレットは、認定されたハードウェアセキュリティモジュール (HSM) テクノロジーに基づいています。ハードウェアセキュリティモジュールは、秘密鍵を保護し、マルチ認証プロセスを管理します。

「LCX Vault は、機関投資家をデジタル資産取引のオペレーショナルリスクから保護し、資産管理者とカストディアンがセキュリティを損なうことなくこの新しいクラスの資産を便利に取引できるようにします。」

LCX Vault は、デジタル資産の取引と保管に固有の運用リスクを排除します。

- マルチ署名機能、カスタマイズ可能な権限を持つ定義された役割
- 設定可能なデジタル資産ウォレットのアクセス制御リスト
- トランザクション用にカスタマイズされた多段階認証
- レート制限、マルチ署名、タイムロック制御
- 緊急復旧手順

LCX Vault へのアクセスは、厳密な役割ベースおよび属性ベースのアクセス制御ルールに基づいています。

LCX Protocol

LCX は分散型コンプライアンスプロトコルを開発し、セキュリティトークンがブロックチェーンで発行および取引される方法を標準化します。これは市場の状況に応じて、大手ブロックチェーン企業とのチームワーク、あるいは社内で開発されます。

リヒテンシュタインプロトコルは、LCX によって開発された基準であり、法的要件およびリヒテンシュタインの一連の法律（ブロックチェーン法と呼ばれる）に完全に準拠するようにセキュリティトークンを転送するメカニズムを定義しています。

ここではブロックチェーンで専用の許可されたトークンを発行して、取引承認のためにオンチェーン LCX レギュレーターサービスをチェックする必要があります。LCX レギュレーターサービスは、関連する証券規制、顧客本人確認（KYC）ポリシー、マネーロンダリング防止（AML）要件、税法などを満たすように構成できます。リヒテンシュタインプロトコルにより、セキュリティトークンが法に準拠し、多くのプラットフォームで取引できるようになります。

「リヒテンシュタインプロトコル」は、二次転送コンプライアンスの要求に対応しています。LCX は、私募証券や暗号資産を含むあらゆる資産のトークン化を強化することにより、世界の証券市場の変革を目指しています。

追加情報は www.LCX.com で公開されています。

LCX パートナースhip

戦略的パートナーシップの概要は www.LCX.com/about こちらでご覧いただけます。
- こちらは定期的に更新されます。

世界経済フォーラム

世界経済フォーラムは、官民協力に向けた国際機関です。

このフォーラムでは、世界の政治、ビジネス、その他の社会のリーダーを巻き込み、グローバル、地域、業界のアジェンダを形成します。

第4次産業革命センターは、科学技術の利益を促進する政策の枠組みを開発し、コラボレーションを推進するための、グローバルなマルチステークホルダーが協力を行う中心地です。

LCX は世界経済フォーラムの第4次産業革命センターメンバーとして、世界の状態を改善するというフォーラムのコミットメントに密接に連携する、選ばれたグローバル企業グループに参加しています。

Ledger

2014年に設立された Ledger は、暗号通貨およびブロックチェーンアプリケーション向けセキュリティおよびインフラストラクチャソリューションのリーダーです。パリとサンフランシスコに本社を置く Ledger は、すでに165か国で販売されている Ledger ハードウェアウォレットラインなど、個人や企業の暗号通貨資産を保護するためのさまざまな製品とサービスを開発する200人の専門家チームを擁しています。2018年、Ledger は WIRED Magazine 誌から「パリで最もホットなスタートアップ」の1つに選ばれました。

Blockchain Research Institute

Blockchain Research Institute (BRI) は、カナダのトロントに本部を置く Don と Alex Tapscott 氏によって設立された、ビジネスおよび政府におけるブロックチェーンの戦略的機会を見出すことに専念する、グローバルな独立シンクタンクです。



研究所のグローバル専門家チームは、ブロックチェーン戦略、市場機会、実装の課題について調査、理解、文書化、リーダーへの通知を行うことに専念しています。

グローバルデジタルファイナンス (GDF)

GDF は、市場参加者、政策立案者、規制当局との共有エンゲージメントフォーラムで、行動基準の策定を通じて、暗号およびデジタル資産とデジタルファイナンステクノロジーのベストプラクティスの採用を促進する業界会員団体です。

グローバルデジタルファイナンスは、「真にデジタル」なファイナンスの知識ベースとベストプラクティスを構築することにより、効率的で公正かつ透明な暗号資産市場を促進するよう努めています。私たちは、暗号資産とトークン市場が従来の金融サービス内で補完的に進化および成長できる包括的なビジョンを推進しています。

セキュリティトークンアライアンス (STA)

STA は、セキュリティトークンエコシステムに本気で取り組む参加者の同盟であり、共通の課題をまとめて解決するために協力しています。セキュリティトークンと関連インフラストラクチャが成熟し、規制され、準拠し、信頼できる段階にある状況を作り出すために、既存および暗号資産の投資家、規制当局、弁護士、コンプライアンス担当者、イーサリアム開発者、愛好家など幅広い人材を歓迎しています。

セキュリティトークンアライアンスは、任意の管轄区域で登録されたブローカーディーラーでも投資アドバイザーでもありません。私たちのサイトまたはそのチームメンバーを通じて金融商品に投資したり、トークンを購入することはできません。セキュリティトークンアライアンスで公開されている情報は、投資アドバイスやプロジェクトの推奨としてみなされるべきではありません。すべての投資にはリスクが伴うため、投資を行う前に、認可を受けた財務アドバイザーに専門的な投資アドバイスを求める必要があります。

Liquid

2014 年に設立された当社は、Liquid.com (“Liquid”) を運営するグローバルな大手フィンテック企業です。グローバルな暗号通貨プラットフォームとして、ブロックチェーンテクノロジーを活用した取引、交換所、次世代金融サービスを提供しています。Liquid は、日本、シンガポール、ベトナムにオフィスを構え、現地パートナーの強力なネットワークと、銀行および金融商品の幅広いチーム経験を組み合わせ、クラス最高の金融サービスを顧客に提供しています。

現在 Liquid は、日本で規制されている、取引量世界最大の暗号化プラットフォームです。Liquid は、お客様にさまざまなフィアット通貨と暗号通貨ペアの価格マッチングを強化し、より深い流動性を提供する World Book を搭載しています。これによりビットコイン、イーサリアムなどの暗号通貨と日本円、米国、シンガポール、オーストラリアドル、ユーロの法定通貨ペアの取引サービスを提供しています。

LCX マネジメントおよびチーム

LCX は、暗号、ブロックチェーン、銀行セクターの専門知識のバランスを取りながら、テクノロジーを中心とする企業です。すべてのチームメンバーは、長年にわたって業界の革新の最前線にあり、過去に急成長した企業をリードしてきました。

経営陣は、モルガンスタンレー、ゴールドマンサックス、JP モルガン、ドイツ銀行などの金融機関、およびリヒテンシュタイン銀行などのテックスタートアップ、ブロックチェーンプロジェクト、クオントファンド、ベンチャーキャピタルで働いています。

LCX は、マネジメントチームの詳細な概要を以下で公開しています。 www.LCX.com/about

モンティ・C. M. メッツガー LCX の CEO、創設者、取締役会会長です。彼は長年インターネットに携わり、デジタルの未来について高い評価を受けています。

LCX での彼の役割では、次世代のデジタル資産取引所と、従来の資産と暗号資産を融合した金融機関を含め、新しい金融世界のためのブロックチェーン銀行を構築することです。

モンティは 1998 年に最初のインターネット企業を設立して以来、いくつかのテック企業を共同設立しました。彼は、北京、東京、ミュンヘン、ニューヨークにオフィスを持つ未来技術コンサルタント会社を共同設立しました。2008 年に会社を退社した後、彼はビジネスエンジェルおよび投資家になり、ファミリーオフィスである Metzger Capital AG を通じて管理しています。

2014 年、彼は Digital Leaders Ventures (www.DLV.com) をルクセンブルクで共同設立し、ゼネラルパートナーを務めました。DLV は、世界中の急成長しているテクノロジー企業に投資しています。

以前には、テクノロジー業界で最も影響力のあるリーダーたちのグローバルネットワーク、Digital Leaders (DigitalLeaders.co) を設立しました。Digital Leaders のチームは、CEO、ハイレベルマネージャー、企業グループ、政府代表団向けにカスタマイズされた学習行程やエグゼクティブプログラムを提供し、シリコンバレー、ストックホルム、ロンドン、テルアビブ、北京、東京、スイスのクリプトバレーやリヒテンシュタインなどのテクノロジーハブにて課題をキュレーションしています。Digital Leaders AG の本社はスイスにあります。

詳細については <http://blog.monty.de> をご覧いただくか、Twitter でモンティをフォローしてください。 [@montymetzger](https://twitter.com/montymetzger)

LCX アドバイザー

LCX は、国際的に高く評価されている思想的リーダー、影響力のある業界リーダー、経験豊富な起業家たちなど、選ばれたグループと協力しています。すべてのアドバイザーは、長期的なビジネスの取引先であり、モンティ・C. M. メッツガーと経営陣の友人でもあります。

LCX のアドバイザーは、定期的に管理チームと連携しています。LCX は、アドバイザーリーコール、特定のトピックに関する 1 対 1 のセッション、および非公開のアドバイザーリーセッションを定期的に開催しています。

ドン・タプスコット、ブロックチェーンの第一人者

ドン・タプスコット・グループ CEO、ドン・タプスコットは、ビジネスと社会にテクノロジーが与える影響に関する世界有数の権威の 1 人です。彼は、ウィキノミクスを含む 16 冊の本を執筆しています。” マスコラボレーションによる開発・生産の世紀へ” は 25 を超える言語に翻訳されています。

ドンの最新かつ最も野心的な本は、息子であり、スタートアップの CEO であり、ビットコインガバナンスの専門家であるアレックス・タプスコットと共著した、Blockchain Revolution です。

ドンはカナダ勲章のメンバーであり、2 番目に影響力のある経営思想家であり、Thinkers50 における世界一のデジタル思想家です。彼は、ロットマン経営大学院の副教授、オンタリオ州トレント大学の学長です。今日の技術革新とその世界への影響を説明する上で、彼より多作で、深遠で、影響力のある人を想像するのは容易ではありません。

詳細はこちらをご覧ください DonTapscott.com

ジミー・ウェールズ、ウィキペディア創設者

インターネットおよびテクノロジー起業家。オンライン非営利百科事典ウィキペディア創設者。エンターテインメントメディアブランドである Fandom powered by Wikia を含む、非公開会社 Wikia の共同創設者です。ウィキペディア運営のために設立された非営利慈善団体、ウィキメディア財団理事会の委員を務めています。2017 年 4 月には、WikiTribune を開始しました。これは、事実確認のとれた信頼できる記事をキュレーションするためにボランティアとともにプロのジャーナリストが関与するニュースウェブサイトです。タイム誌の「世界で最も影響力のある 100 人」で、ウィキペディアの作成における功績により指名されました。

張首晟 (チャン・ショウチェン) 博士、スタンフォード大学教授、DHVC 会長

張氏は、スタンフォード大学の物理学科、応用物理学科、電気工学科の専任教授です。彼はまた、アメリカ科学アカデミーの学者、中国科学アカデミーの外国人学者、清華大学高等研究所の教授、そして Danhua Capital (DHVC) の創立会長でもあります。

スピントロニクスおよびトポロジカル絶縁体分野に関する先駆的な研究により、2007 年にグッゲンハイムフェローシップ、2009 年にフンボルト研究賞、2010 年に EPS CMD ユーロ物理学賞、2011 年に求是優秀科学者賞、2011 年にアメリカ物理学会によるオリバー・E・バックリー凝縮系賞物質賞、2012 年にディラック賞をそれぞれ受賞しています。2013 年、彼とステイブン・ホーキングは物理学フロンティア賞を受賞しました。同年、彼は中国科学院で外国人学者になりました。さらに、彼は 2014 年にトムソン・ロイター引用栄誉賞、2015 年にベンジャミンフランクリンメダルを獲得しました。

プラメン・ルセフ、Webit Foundation

フランク・ゲスナーは、スタートアップ、スケールアップから成長企業や IPO まで、深いデジタルノウハウと企業成長の専門知識を持つシリアル起業家です。大学生の頃、フランクはカスタムウェブショップソフトウェアを開発し、後に NASDAQ に上場され、一時 110 億ドル以上の価値を誇った電子商取引会社、Intershop AG を共同設立しました。Intershop での 10 年間、彼はグローバルな製品開発を担当していました。その後、彼は e コマースを最適化するためのバックオフィスソフトウェアを提供する企業、ALEA を創設しました。

後に彼は、急成長する企業の技術プラットフォームを担当する最高情報責任者 (CIO) として Delivery Hero に入社しました。2014 年 1 月、彼は開発者および技術専門家の HR および採用プロセスを変革させるテック採用プラットフォームである 4scotty.com を創設しました。

彼は起業家としての努力に加えて、積極的なビジネスエンジェルであり、投資家であり、創設者であり、TowerVenture のパートナーであり、Avala Capital のベンチャーパートナーでもあります。

近年フランク・ゲスナーは Invao 社をリヒテンシュタインにて創設しました。Invao はグローバルなブロックチェーン投資管理会社であり、投資家がブロックチェーンの成長の可能性を利用できるように、業界を超えたアプローチを用いて洗練された金融商品を開発しています。Invao は、リヒテンシュタイン金融市場局 (FMA) によって承認された資産担保ブロックチェーン債券である IVO ブロックチェーンダイバーシファイドボンドを立ち上げました。

プラメン・ルセフ、Webit Foundation

100 以上国以上のデジタルエリート、エンタープライズリーダー、投資家、創設者からなる世界最大級のコミュニティである Webit.Foundation および Global Webit Series の創設者兼エグゼクティブチェアマンです。プラメン・ルセフは、マーケティングおよび経営学士です。数学と情報学、e-教育の修士号を取得しています。健康と社会の課題を管理するデジタルソリューションに関する論文で博士号を取得しました。

彼はシリアル起業家、投資家、慈善家でもあります。プラメンは、多くの国際企業および NGO の委員会のメンバーです。最近、彼はエンデバーブルガリアの取締役会に加わりました。New Europe のトップ 100 イノベーターに選ばれ、政府と NGO から表彰を受けています。

蕭逸 (ヤット・シウ)、Outblaze、Animoca ブランド

蕭逸は、香港を拠点とするテクノロジー起業家であり、投資家です。クラウド、ゲーム、およびスマートフォンソフトウェアを専門とするデジタルサービスおよびソリューション企業である Outblaze の創設者兼 CEO です。シリアル起業家であるヤットは、モバイルゲームのパブリッシャーである Animoca Brands の創設者兼取締役でもあり、初年度に 200 のアプリを公開し、6,000 万人を超えるプレイヤーを獲得した後に、Intel Capital と IDG-Accel から投資を集めました。Animoca Brands はブロックチェーンゲームのパイオニアであり、シドニー証券取引所 ASX に上場しています。

1995 年に彼は香港に移り、アジア初の無料のウェブページおよびメールプロバイダーである香港サイバーシティ/フリーネーションを設立し、後に米国の企業が買収しました。1998 年に、彼は Outblaze を設立しました。Outblaze は、クラウドのような多言語のホワイトラベルウェブアプリケーションを開拓した、数々の受賞歴のある企業です。2009 年、IBM は Outblaze のメッセージング部門を買収し、それを使用してアジア初の IBM クラウドコンピューティングラボを開設しました。資産売却後、ヤットは Outblaze の方向転換に成功し、主にデジタルコンシューマエンターテインメントに焦点を当てました。

ヤットは、URENCO イノベーション賞、アジア太平洋起業家アワードで優れた起業家賞、DHL/SCMP ビジネスアワードで最優秀若手起業家賞などを受賞しています。2002 年、世界経済フォーラムは彼を明日のグローバルリーダーに指名しました。

ミコ・マツムラ、ソートリーダー

ミコ・マツムラは暗号のパイオニアであり、Evercoin の創設者であり、暗号通貨基金である BitBull Capital のベンチャーパートナーです。彼は FileCoin、Brave、CIVIC、Propy、Polymath のトークンホルダーであり、Lyft の投資家です。Java 言語およびプラットフォームのチーフエバンジェリストとして、彼はインターネットの最前線に参加し、現在は価値のインターネットに完全に従事しています。シリコンバレーで 25 年の経験を持つ経営幹部として、彼はオープンソーススタートアップのベンチャーキャピタルで 5,000 万ドル以上、ICO 資本で 2 億ドル以上を調達しました。彼はまた、8 億ドル以上を管理し、9 つの IPO と 44 のイグジットを行った企業である Focus Ventures の LP です。彼はエール大学で神経科学の修士号を取得しており、そこで抽象計算ニューラルネットワークに取り組みました。彼は、サンフランシスコでの Crypto Underground ミートアップのリーダーであり、多くの暗号通貨およびブロックチェーンイベントでよく知られた講演者です。

デイビッド・ミケルセン・トロエンセガード、社会起業家

デイビッド・ミケルセン・トロエンセガードは、弟のデイビッドとともに社会起業家として、Refugees United を創設しました。これは紛争からの脱出中に離散した難民の家族を再会させる使命を持つ組織です。この兄弟は、現地の難民を支援する非政府組織間で家族を特定する IT インフラストラクチャの実装に取り組んでいます。エージェンシー間での強力なツールを提供するだけでなく、忘れられがちな難民自身のスキルと能力を、再会プロセスの一部として活用しています。Refugees United はその使命を追求するために、民間セクターにある膨大な知識に焦点を当てています。フェデックス、SAP、エリクソン、ケッチャム PR などの企業と提携し、NGO の情熱とビジネス組織の専門知識を結びつけることで、目に見えないグローバルな問題を解決する高インパクトかつ低コストのモデルを作成しています。

LCX ロードマップ



2013年、モンティ・C. M. メッツガーは彼のブログで「Mapping the Bitcoin Landscape」を公開しました。
<https://blog.monty.de>

Digital Leaders Ventures でモンティと彼のチームは暗号資産に投資したかったのですが、当時は規制の枠組みと機関レベルのインフラストラクチャが存在していませんでした。LCX のアイデアが生まれました。

現在、LCX は、技術主導の銀行としてデジタルエクセレンスを目指しています。

初日から国際的な成長をします。

持続可能な事業買収を行います。

2025

数十億の資産管理 (AuM)

70%暗号資産 / 30%フィアット資産

外気圏

デジタルエクセレンスによる成長

優れた運用と顧客中心性

AI とオートメーションをマスター

2024

熱圏

決済バンキングによる成長

LCX Crypto FX & 暗号コルレスバンキング

2023

中間圏

トークン化による成長

LCX Assets - セキュリティトークンの新しい資産クラスの確立

LCX Exchange - 実質的なセキュリティトークン交換ボリューム

2022

成層圏

ブロックチェーンバンキング

ブロックチェーン企業および暗号基金向けコーポレートバンキング

LCX Vault - ライセンスされた暗号資産カストディアン

2021

対流圏

フルバンクライセンス - ブロックチェーンバンキングフレームワーク

トランザクションバンキングとベータ版セキュリティトークン取引所の開始

LCX のアジャイルクラウドコアバンキングシステム立ち上げ - 暗号とフィアットの融合
規制レポート、KYC および AML 用の AI ベースツールの導入

2020

2019

暗号資産フレームワーク : LCX Terminal - 2019年6月に立ち上げ

2018

LCX AG 設立 - シード資金、技術開発

2017

LCX ビジョン - 初期パートナーシップ、事業計画、チームビルディング

免責条項

本資料は今後更新されます。この文書は、あなたが考慮したい情報のすべてを含むことを意図するものではありません。この資料は、それ自体に依存したり、独立した判断を行使する際に使用するものではありません。

将来の見通しに関する注意事項

この文書には、固有のリスクと不確実性を伴う将来の見通しに関する記述が含まれており、将来の見通しに関する記述で説明または暗示する予測、予想、見積もり、およびその他の結果を達成できない可能性があります。多くの重要な要因により、これらの将来の見通しに関する記述およびその他の公開書類およびプレスリリースで表明する計画、目的、期待、推定、意図と結果が大きく異なる可能性があります。これらの将来の見通しに関する記述を更新する意図はありません。

特に、「見積もり」、「図」、「志」、「客観的」、「見通し」および「目標」という用語は、ターゲットまたは予測と見なされることも、重要業績評価指標と見なされることも意図されていません。そのような見積り、図、志、目的、見通しおよび目標はすべて、多数の固有のリスク、仮定、および不確実性の影響を受けます。これらのリスク、仮定、および不確実性には、一般的な市場状況、市場のボラティリティ、金利のボラティリティと水準、世界的および地域的な経済状況、政治的不確実性、税政策の変更、規制の変更、上記およびその他の要因のいずれかの結果としての顧客の活動レベルの変更が含まれますが、これらに限定されません。したがって、この情報はいかなる目的においても依存すべきものではありません。これらの見積もり、図、志、目的、見通しまたは目標を更新する意図はありません。

戦略的イニシアチブおよびパートナーシップの恩恵を達成できない場合があります

戦略的イニシアチブおよびパートナーシップの期待される恩恵のすべてを達成できない場合があります。市場および経済状況、法律、規則または規制の変更、およびその他の市場の課題を含むがこれらに限定されない当社の制御を超えた要因により、これらのイニシアチブに期待される恩恵の一部またはすべてを達成する能力が制限される可能性があります。

見積もりと仮定

この文書を作成するにあたり、経営陣は提示された数値に影響を与える見積もりと仮定を行っています。実際の結果は異なる場合があります。年換算数は、営業成績、季節性、およびその他の要因の変動を考慮しておらず、実際の通年業績を示すものではない場合があります。この文書全体の数値は、丸め調整の対象となる場合があります。すべての意見および見解は、読者が情報を受信またはアクセスする日付に関係なく、執筆日現在の判断によって構成されます。この情報は予告なく変更される場合があります、この情報を更新する意図はありません。

情報源

このプレゼンテーションの特定の資料は、公的に入手可能な情報、社内で開発されたデータ、および信頼できるとされる他のサードパーティの情報源に基づいてLCXによって作成されました。LCXは、公的および第三者のソースから取得した情報を独立して検証しようとしておらず、そのような情報の正確性、完全性、または信頼性についての表明または保証を行いません。